

令和6年度(2024年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	国語	学年	1 学年	単位数	2 単位
科目名	現代の国語	担当者	谷 美幸		
使用教材	高等学校標準現代の国語(第一学習社) セレクト漢字検定5級～2級 確認と演習(桐原書店)				
学習目標	1 言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して的確に理解し、効果的に表現することができる。				
	2 社会に必要な国語の知識や技能を身に付け、実生活に生かすことができる。				
	3 論理的に考える力や想像力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。				
	4 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとすることができる。				
学習方法	1 文章全体を正確に読み取れるよう、声に出して練習する。課題は単元ごとに取り組み、復習の一部にする。わからない語句は自分で調べておく。				
	2 板書を中心にノートを作成する。板書事項以外にも大切な点は書き留め、理解が深まるよう工夫する。感想や自分なりの意見を持ち、発表して表現する。				
	3 日頃から漢字の読み書きの練習や語彙問題の練習に取り組み、定期的な小テストで確認する。				
必ず取り組む最小目標	与えられた問題や課題に取り組む。				
実現したいと思う最大目標	問題や課題の的確な答えを導く。				
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階「5」～「1」で評価を行う。また、学年末にはそれらを総合して観点別3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階「5」～「1」で評定を行う。				
	観点	知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	評価方法	・定期考査, 課題 ・休み明けテスト ・小テスト	・定期考査 ・課題の取り組み状況		・学習活動への取り組み状況 ・課題提出状況
	A	実社会に必要な国語の知識や技能を十分身に付けている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。		言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させている。
	B	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしようとしている。		言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させようとしている。
C	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けていない。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしていな		言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させようとしていない。	

令和6年度(2024年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画						
教科名	国語		学年	1 学年	単位数	2 単位
科目名	言語文化		担当者	比企 絢子		
使用教材	高等学校 標準言語文化 (第一学習社)					
	体系古典文法 (数研出版) 古文単語330(文英堂) 漢文必携(桐原書店)					
学習目標	1 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。					
	2 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。					
	3 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。					
	4					
学習方法	1 授業の時だけではなく、積極的に教科書の読解をし、自分の考えを深めましょう。また、教科書のみならず本や新聞の「活字」に触れる機会を増やしましょう。					
	2 ノートをしっかり取るだけでなく、板書したこと以外も、ノートにメモ書きする習慣をつけましょう。また、ワーク、小テスト等、様々な課題があるのでしっかりとこなしましょう。					
	3 古典分野については、「声に出して読む」とこと、予習・復習が大事です。古文は『体系古典文法』を使って、文法理解に努めましょう。					
必ず取り組む最小目標	行うべき課題に取り組んでいる。					
実現したいと思う最大目標	単元内容から得た学びを、日頃の授業や生活において活かす。					
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、10段階「10」～「1」で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階「5」～「1」で評定を行う。					
	観点	知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	評価方法	・定期考査、課題 ・小テスト、単元テスト	・定期考査 ・課題への取り組み状況		・学習活動への取り組み状況 ・課題、ノート提出状況	
	A	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を深く身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的思考力や共感力、想像力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。		言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。	
	B	社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解をしようと努めている。	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的思考力や共感力、想像力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしようと努めている。		言葉を通して他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、読書に親しみ、言語文化を大切にしようとしている。	
	C	国語の知識や技能を身に付けていない。また、言語文化に対する理解を深めていない。	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的思考力や共感力、想像力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしようと努めていない。		言葉を通して他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めようと思わず、読書に親しみ、言語文化を大切にしようとしていない。	

令和6年度(2024年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	地理歴史	学年	1 学年	単位数	2 単位
科目名	歴史総合	担当者	鶴身 幸一		
使用教材	①現代の歴史総合 みる・読みとく・考える（山川出版） ②歴史総合図説シンフォニア（帝国書院）				
学習目標	1 社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりすることをめざす。 2 広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に対応することをめざす。 3 平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者をめざす。 4 公民としての資質・能力を身に付けることをめざす。				
学習方法	1 授業を大切にすること 〔教科書の熟読、ノートの板書・メモ・まとめ・感想・丁寧さ、資料集の活用、グループ学習〕 2 テスト前に試験範囲は完璧に学習して仕上げる。 〔1～2週間前から教科書・ノート・プリントなどで丁寧に復習する。〕				
必ず取り組む最小目標	授業に臨む際には、生徒として最低限の義務を果たす。 〔出席、私語や居眠りをしない、必要な教材教具の用意、説明の理解、ノートを取り、提出物の厳守、主体的に学ぶ〕				
実現したいと思う最大目標	歴史的な見方や考え方を生かして、現代的な諸課題を考察し、その諸課題に対して、歴史的な問いを立て、これまでの学習をもとに考察・表現できるようにする。				
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、10段階「10」～「1」で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階「5」～「1」で評定を行う。				
	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	評価方法	・定期考査 ・課題 ・小テスト	・定期考査 ・課題の取り組み状況	・学習活動への取り組み状況 ・課題提出状況	
	A	①積極的に意見を述べ仲間と学習できている ②気がついたことがあればノート・メモを取るなど記録することができる ③ポイントを選び、自分なりにまとめをすることができる	①理解したことをもとに自分の意見を持ち、仲間にわかりやすく表現できる ②課題を解決できる	①興味や関心があることに取り組むことができる ②わからないことや気になることを調べたり、教員や仲間に聞いて解決することができる	
	B	①話している人を見て、うなずくなど反応しながら話を聞いている ②黒板に書かれていることに加えて、ポイントをメモすることができる	①理解したことをもとに自分の意見を持ち、表現できる ②課題を見つけ、解決方法を見つけようとしている	①毎日、学習した内容を復習できる ②わからないことや気になることを調べたり、教員や仲間に聞いて解決しようとする	
C	①話している人を見て話を聞いている ②黒板の内容をノートに取ることができる ③提出物を期日まで提出できる	①アドバイスがあれば意見を持つことができる ②アドバイスがあれば課題をグループとともに解決することはできる	①考査前は学習した内容を復習できる ②提出物を期日まで提出できるように取り組める		

令和6年度(2024年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	地歴公民	学年	1 学年	単位数	2 単位
科目名	地理総合	担当者	寺 嶋 優 駿		
使用教材	教科書： 高等学校 新地理総合(帝国書院)				
	地図帳： 新詳高等地図 (帝国書院)				
	資料集： 新詳地理資料 COMPLETE 2023(帝国書院)				
学習目標	現代世界の地理的な諸課題を地域性や歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。				
学習方法	1 授業を大切に積極的に取り組み、重要な知識の定着に心がける。また、課題にしっかり取り組み、忘れずに提出する。				
	2 暗記だけでなく、グラフを分析したり地図の読図・作図などができることが重要である。わからない地名などが出てきたときには地図帳で調べることが大切である。				
	3 世界諸地域の生活・文化及び地球的課題を理解するためにも、新聞やテレビ等から積極的に情報を得ようとする姿勢が大切である。				
必ず取り組む最小目標	生徒として最低限の義務を果たすことができる。(1)出席する(2)私語・居眠りをしない(3)チャイム前着席・授業の準備を忘れない(4)ノートやプリントの記入は丁寧に行う。				
実現したいと思う最大目標	地球市民として「異文化の尊重」と「国際協力の推進」のために、(1)多文化共生(2)持続可能な開発(3)人権尊重(4)公正さなどの実現をめざして積極的に関わっていこうとする態度を身につける。				
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、10段階「10」～「1」で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階「5」～「1」で評定を行う。				
	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	評価方法	定期考査、課題、小テスト	定期考査、課題	学習活動状況、課題	
	A	①積極的に意見を述べ仲間と学習できている ②気がついたことがあればノート・メモを取るなど記録することができる ③ポイントを選び、自分なりにまとめをすることができる	①理解したことをもとに自分の意見を持ち、仲間にわかりやすく表現できる ②課題を解決できる	①興味や関心があることに取り組むことができる ②わからないことや気になることを調べたり、教員や仲間に聞いて解決することができる	
	B	①話している人を見て、うなずくなど反応しながら話を聞いている ②黒板に書かれていることに加えて、ポイントをメモすることができる	①理解したことをもとに自分の意見を持ち、表現できる ②課題を見つけ、解決方法を見つけようとしている	①毎日、学習した内容を復習できる ②わからないことや気になることを調べたり、教員や仲間に聞いて解決しようとする	
	C	①話している人を見て話を聞いている ②黒板の内容をノートに取ることができる ③提出物を期日まで提出できる	①アドバイスがあれば意見を持つことができる ②アドバイスがあれば課題をグループとともに解決することはできる	①考査前は学習した内容を復習できる ②提出物を期日まで提出できるように取り組める	

令和6年度(2024年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	数 学		学年	1 学年	単位数	3 単位
科目名	数学 I		担当者	女鹿一洋・高松朋亮		
使用教材	数学 I Standard (東京書籍)					
	新課程Standard Buddy WIDE 数学 I +A(東京書籍)					
学習目標	数を実数まで拡張することの意義を理解し、式の見方を豊かにするとともに、1次不等式について理解を深め、それらを活用できるようにする。集合についての基本的事項を理解し、統合的に見ることの有用性を認識し、論理的思考を伸ばすとともに、それらを命題などの考察に生かすことができる。					
	2 二次関数について理解し、関数を用いて数量の変化を表現することの有用性を認識するとともに、それを具体的な事象の考察や2次方程式・2次不等式を解くことなどに活用できるようにする。					
	3 直角三角形における三角比の意味、それを鈍角まで拡張する意義及び、図形の計量の基本的な性質について理解し、角の大きさなどを用いた計量の考えの有用性を認識するとともに、それらを具体的な事象の考察に活用できるようにする。					
	4 データの整理の仕方をいろいろ学び、それを基に具体的事象のデータの分析ができるようにする。					
学習方法	1 授業ではノートをきちんとまとめ、プリント等の配布物をきちんと提出し、積極的に授業に取り組むよう努力すること。					
	2 数学は積み重ねが大切な教科ですので、宿題＋小テストに毎回取り組み、副教材などで繰り返し復習し実力を高めていくこと。					
	3 長期休業中の課題で、それまで学習したことをしっかり復習すること。					
必ず取り組む最小目標						
実現したいと思う最大目標						
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評定を行う。					
	観点	知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	評価方法	・定期考査, 課題 ・休み明けテスト ・小テスト, 単元テスト	・定期考査 ・課題の取り組み状況		・学習活動への取り組み状況 ・課題提出状況	
	A	数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に深く理解している。事象を数学化したり, 数学的に解釈したり, 数学的に表現・処理したりする技能を十分身に付けている。	数学を活用して事象を論理的に考察する力, 事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力, 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を十分身に付けている。		数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようしたり, 粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり, 積極的に評価・改善しようしたりしている。	
	B	数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。事象を数学化したり, 数学的に解釈したり, 数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	数学を活用して事象を論理的に考察する力, 事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力, 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。		数学のよさを認識し, 数学を活用しようしたり, 数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり, 評価・改善しようしたりしている。	
	C	数学における基本的な概念や原理・法則を理解していない。事象を数学化したり, 数学的に解釈したり, 数学的に表現・処理したりすることができない。	数学を活用して事象を論理的に考察することができない。事象の本質や他の事象との関係を認識できない。数学的な表現を用いることができない。		数学のよさを認識しようとしせず、粘り強く考えたり数学的論拠に基づいて判断したりしようとししない。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとししない。	

令和6年度(2024年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	数 学		学年	1 学年	単位数	2 単位
科目名	数学A		担当者	女鹿一洋・高松朋亮・石黒雄佑		
使用教材	数学A Standard（東京書籍）					
	新課程Standard Buddy WIDE 数学 I +A(東京書籍)					
学習目標	1 具体的な事象の考察などを通して、順列・組合せや確率について理解し、不確定な事象を抽象的にとらえることの有用性を認識するとともに、事象を数学的に考察し処理できるようにする。					
	2 三角形や円などの基本的な図形の性質についての理解を深め、図形の見方を豊かにするとともに、図形の性質を論理的に考察し処理できるようにする。					
	3 数量や図形に関する概念などと人間の活動との関わりについて理解する。 数学史的な話題，数理的なゲームやパズルなどを通して，数学と文化との関わりについて理解する。					
学習方法	1 授業ではノートをきちんとまとめ、プリント等の配布物をきちんと提出し、積極的に授業に取り組むよう努力すること。					
	2 数学は積み重ねが大切な教科ですので、宿題＋小テストに毎回取り組み、副教材などで繰り返し復習し実力を高めていくこと。					
	3 長期休業中の課題で、それまで学習したことをしっかり復習すること。					
必ず取り組む 最小目標						
実現したいと 思う最大目標						
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評定を行う。					
	観点	知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	評価 方法	・定期考査，課題 ・休み明けテスト ・小テスト,単元テスト	・定期考査 ・課題の取り組み状況		・学習活動への取り組み状況 ・課題提出状況	
	A	数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に深く理解している。事象を数学化したり,数学的に解釈したり,数学的に表現・処理したりする技能を十分身に付けている。	数学を活用して事象を論理的に考察する力,事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力,数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を十分身に付けている。		数学のよさを認識し積極的に数学を積極的に活用しようとしたり,粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり,積極的に評価・改善しようとしたりしている。	
	B	数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。事象を数学化したり,数学的に解釈したり,数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	数学を活用して事象を論理的に考察する力,事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力,数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。		数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしたり,粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり,評価・改善しようとしたりしている。	
	C	数学における基本的な概念や原理・法則を理解していない。事象を数学化したり,数学的に解釈したり,数学的に表現・処理したりすることができない。	数学を活用して事象を論理的に考察することができない。事象の本質や他の事象との関係を認識できない。数学的な表現を用いることができない。		数学のよさを認識しようとしせず、粘り強く考えたり数学的論拠に基づいて判断したりしようしない。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり,評価・改善しようしない。	

令和6年度(2024年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	理科	学年	1 学年	単位数	2 単位
科目名	化学基礎	担当者	森 秀夫・高橋 玲美		
使用教材	高等学校 新化学基礎(第一学習社)				
	Libry(ネオパルノート化学基礎)				
学習目標	1 日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。				
	2 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。				
	3 物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。				
学習方法	1 授業前に教科書を読み、重要語句・中学校での既習事項を確認する。				
	2 授業では、板書を写すことにとどまらず、計算過程や式の変形の過程を自分自身で繰り返し、理解を深める。				
	3 問題集を解き、理解度を確認する。小テストごとに復習する。復習なくして、知識や問題を解く力の定着は見込めない。プリントの発展的な問題にも積極的に取り組もう。				
必ず取り組む最小目標					
実現したいと思う最大目標					
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評定を行う。				
	観点	知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	評価方法	・定期考査, 課題 ・休み明けテスト ・小テスト, 単元テスト	・定期考査 ・課題の取り組み状況		・学習活動への取り組み状況 ・課題提出状況
	A	自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けている	自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。		自然の事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究している。
	B	自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解している。あるいは、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けている	自然の事物・現象から問題を見だしている。または、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。		自然の事物・現象に主体的に関わっている。あるいは、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
	C	自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解していない。科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けていない。	自然の事物・現象から問題を見いだせない。見通しをもって観察、実験などを行っていない。得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究していない。		自然の事物・現象に主体的に関わっていない。見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしていない。

令和6年度(2024年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	理科		学年	1 学年	単位数	2 単位
科目名	生物基礎		担当者	皆川 洋		
使用教材	生物基礎(実教出版)					
	アクセスノート 生物基礎(実教出版)					
学習目標	1 日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。					
	2 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。					
	3 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探求しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。					
	4					
学習方法	1 授業に集中し、板書を書き写すのみならず、説明をよく聞き、内容を理解する。					
	2 小テストや定期考査に向けて、家庭学習に取り組み、基礎知識を固める。					
	3 問題集などでの復習に努め、より多様な観点から、生物の成り立ちや制御のしくみ、行動等を理解する。					
必ず取り組む最小目標	授業ノートは必ず自分でその時間内に書くこと。休んだ場合は速やかに人に借りて写しておくこと。					
実現したいと思う最大目標	地球を守る意識を持つ					
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評定を行う。					
	観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	評価方法	小テスト、定期考査、実験、他		定期考査、課題プリント、実験、プレゼンテーション、他		授業プリント、宿題・課題、ペアワーク・グループワーク、調べ学習、実験、定期考査
	A	日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象についての観察、実験などを行うことを通して、生物や生物現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能が身に付いている。		生物や生物現象を対象に、探究の過程を通して、問題を見いだすための観察、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、調査、データの分析・解釈、推論などの探究の方法が習得できている。また、報告書を作成したり発表したりして、科学的に探究する力が育まれている。		生物や生物現象に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする態度など、科学的に探究しようとする態度が養われている。その際、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度が養われている。
	B	日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象についての観察、実験などを行うことを通して、生物や生物現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能がおおむね身に付いている。		生物や生物現象を対象に、探究の過程を通して、問題を見いだすための観察、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、調査、データの分析・解釈、推論などの探究の方法が習得できている。また、報告書を作成したり発表したりして、科学的に探究する力がおおむね養われている。		生物や生物現象に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする態度など、科学的に探究しようとする態度がおおむね養われている。その際、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度がおおむね養われている。
	C	日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象についての観察、実験などを行うことを通して、生物や生物現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能が身に付いていない。		生物や生物現象を対象に、探究の過程を通して、問題を見いだすための観察、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、調査、データの分析・解釈、推論などの探究の方法が習得できていない。また、報告書を作成したり発表したりして、科学的に探究する力が育まれない。		生物や生物現象に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする態度など、科学的に探究しようとする態度が養われていない。その際、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度が養われていない。

教科名	保健体育	学年	1 学年	単位数	2 単位								
科目名	体育	担当者	市山貴一・加藤武志・豊田裕子・奥 恭平										
使用教材													
学習目標	1 運動の多様性・体力の必要性を理解し、それらの技能を身に付け、活用する力を養う。 2 課題の発見・解決のために思考、判断するとともに、それを他者に伝える力を養う。 3 公正・協力・責任・参画などの意欲を育て、生涯にわたり継続的に運動に親しむ資質・能力を養う。												
学習方法	1 積極的に授業に参加し、その種目の知識や技能、そして安全について理解する。 2 自己やチームについて課題の発見と解決を目指し、周囲とコミュニケーションをとりながら練習や試合の工夫に取り組む。 3 ペアワークやグループワークにより、身体活動と共に、言語活動が活発になるよう積極的に取り組む。												
必ず取り組む 最小目標													
実現したいと 思う最大目標													
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	学期末・学年末の学業成績の評価・評定は学習指導要領の各教科の評価の観点及びその趣旨や特性を踏まえて、観点別評価をし、総合的に判断して行う。 ①評価の主な観点(3観点)は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」とする。 ②前・後期末の成績は、3観点評価及び5段階評価を行う。 ③学年末の成績は、その年度分を総合的に評価し、3観点評価及び5段階評定を行う。 <table border="1"> <tr> <td>観点</td><td>知識・技能</td><td>思考・判断・表現</td><td>主体的に学習に取り組む態度</td></tr> <tr> <td>評価方法</td><td>・技能テスト ・ルールテスト ・観察</td><td>・ワークシート ・グループ活動の取り組み状況</td><td>・学習活動への取り組み状況</td></tr> </table> 評価基準は次のページに記載					観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	評価方法	・技能テスト ・ルールテスト ・観察	・ワークシート ・グループ活動の取り組み状況	・学習活動への取り組み状況
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度										
評価方法	・技能テスト ・ルールテスト ・観察	・ワークシート ・グループ活動の取り組み状況	・学習活動への取り組み状況										

令和6年度(2024年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画				
教科名	保健体育		学年	1 学年
科目名	保健		担当者	加藤 武志
使用教材	大修館書店 現代高等保健体育(保体701)			
学習目標	1 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深め、技能を身に付けるようにする。			
	2 健康についての課題を発見し、解決に向け計画的に行動できるような思考・判断できる力を養う。			
	3 健康について、課題の解決を合理的にするため、状況に応じ他者に伝える力を養う。			
	4 生涯を通じて、健康の保持増進や環境づくりを目指し、活力ある生活を営む態度を養う。			
学習方法	1 自分自身の健康管理について理解し、課題発見と解決に向け主体的に取り組む。			
	2 時間毎の口頭質問や、単元毎の小テストを行うことで、理解を深められるよう積極的に取り組む。			
	3 ペアワークやグループワークにより、言語活動が活発になるよう積極的に取り組む。			
必ず取り組む最小目標				
実現したいと思う最大目標				
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	学期末・学年末の学業成績の評価・評定は学習指導要領の各教科の評価の観点及びその趣旨や特性を踏まえて、観点別評価をし、総合的に判断して行う。 ①評価の主な観点(3観点)は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」とする。 ②前・後期末の成績は、3観点評価及び5段階評価を行う。 ③学年末の成績は、その年度分を総合的に評価し、3観点評価及び5段階評定を行う。			
	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	評価方法	・定期考査, 課題 ・小テスト	・定期考査 ・課題の取り組み状況	・学習活動への取り組み状況 ・課題提出状況
	A	・現代社会における健康や、安全に生活を送るために、必要な言語や知識などについて深く理解し、言ったり書いたりすることができる。	・現代社会における健康や、安全に生活を送るために、原則や概念を基に整理したり、自他や社会の課題を発見し、その解決方法や選択した理由などを話し合ったり、記述するなど筋道を立てて説明している。	・現代社会における健康や、安全に生活を送るために、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組んでいる。
	B	・現代社会における健康や、安全に生活を送るために、必要な言語や知識などについて理解し、言ったり書いたりすることができる。	・現代社会における健康や、安全に生活を送るために、原則や概念を基に整理したり、自他や社会の課題を発見し、その解決方法や選択した理由などを話し合ったり、記述するなど概ね筋道を立てて説明している。	・現代社会における健康や、安全に生活を送るために、課題の解決に向けた学習に取り組もうとしている。
	C	・現代社会における健康や、安全に生活を送るために、必要な言語や知識などについて理解せず、言ったり書いたりすることができない。	・現代社会における健康や、安全に生活を送るために、原則や概念を基に整理できず、自他や社会の課題を発見したり、その解決方法や選択した理由などを話し合ったり、記述するなど筋道を立てて説明できない。	・現代社会における健康や、安全に生活を送るために、課題の解決に向けた学習に取り組もうとしていない。

令和6年度(2024年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	芸術科(音楽)		学年	1 学年	単位数	2 単位
科目名	音楽 I		担当者	辻 正博		
使用教材	高校生の音楽 1(教育芸術社)					
	Music Note(啓隆社)					
学習目標	1 音楽の幅広い活動を通して、生徒が個性を生かしながら思いや意図をもって表現したり味わって鑑賞したりする力を育成し、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てる。					
	2 音や音楽が醸し出すよさや美しさなどを感じ取り、そこに価値を見いだせる感性を養う。					
	3 音や音楽を知覚・感受して、思考・判断し表現する音楽活動の過程を通して、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。					
	4 音や音楽と生活や社会との関わりについて考え、音環境への関心を高め、楽曲固有のよさや美しさなどを味わうだけでなく、文化的・歴史的背景など広い視野で音楽を捉えて、我が国及び諸外国の音楽文化への理解を深める。					
学習方法	1 曲想を歌詞の内容や背景などと関わらせてイメージし、曲種に応じた発声の特徴を生かして様々な表現形態による歌唱表現や器楽演奏をする。					
	2 音楽を形づくっている諸要素を知覚し、音楽史に沿って各時代の特徴や、曲の文化的・歴史的背景を学んだり、鑑賞した舞台芸術作品から表現活動を行ったりして、音楽の多様性や美しさ、他芸術との関連などに気づく。					
	3 美しさなどを感じ取って、共通性・固有性などに気づき、自分なりの価値を見いだしながら鑑賞する。					
必ず取り組む最小目標						
実現したいと思う最大目標						
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階(「5」～「1」)評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階(「5」～「1」)で評定を行う。					
	観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	評価方法	Music Note 振り返りプリント 筆記試験		実技テスト 取り組み状況 提出プリント		取り組み状況 課題提出状況 実技テスト取り組み状況
	A	楽譜・音符について深く理解した。 音楽史・作品・背景などを深く理解した。 歌唱・器楽演奏能力が著しく向上した。		題材に対して深く考えた。 歴史や背景をよく理解した。 鑑賞した内容を的確に詳しく伝えられた。		深く楽しんでできた。 広く協力しておこなった。 より集中してできた。
	B	楽譜・音符について理解した。 音楽史・作品・背景などを理解した。 歌唱・器楽演奏能力が向上した。		題材に対してよく考えた。 歴史や背景を理解した。 鑑賞した内容を的確に伝えられた。		楽しんでできた。 協力しておこなった。 集中してできた。
	C	楽譜・音符について理解しなかった。 音楽史・作品・背景などを理解しなかった。 歌唱・器楽演奏能力が向上しなかった。		題材に対してよく考えなかった。 歴史や背景からの理解しなかった。 鑑賞した内容を的確に伝えていなかった。		楽しくなかった。 協力しなかった。 集中できなかった。

令和6年度(2024年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	外国語		学年	1 学年	単位数	4 単位
科目名	英語コミュニケーションⅠ		担当者	堀田裕二	小泉孝志	田中秀治
使用教材	Grove English CommunicationⅠ 教科書、ワークブック(文英堂)					
	Stretch starter(オックスフォード出版)					
	e-Learning(Brains)					
学習目標	1 日常的・社会的な話題について、多くの支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。					
	2 日常的・社会的な話題について、多くの支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。					
	3 日常的・社会的な話題について、多くの支援を活用すれば、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けたり、論理性に注意して話して伝え合ったりすることができる。					
	4 日常的・社会的な話題について、多くの支援を活用すれば、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができる。					
	5 日常的・社会的な話題について、多くの支援を活用すれば、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して書いて伝えることができる。					
学習方法	1 Grove:単語確認・内容把握・文法理解・音読練習					
	2 e-Learning(Brains) タブレット利用による反復練習、小テスト					
	3 Stretch:スピーキング練習・意見発表					
必ず取り組む最小目標						
実現したいと思う最大目標						
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行う。それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階「5」～「1」で評定を行う。					
	観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	評価方法	・定期考査(考査・休み明けテスト) ・単語テスト ・リスニングテスト		・パフォーマンステスト ・定期考査		・E-learningの取り組み状況 ・課題提出
	A	外国語の音声や語彙、表現、文法言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用する技能を身に付けている。		コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概念や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりする力を身に付けている。		外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けている。
	B	外国語の音声や語彙、表現、文法言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用する技能を概ね身に付けている。		コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概念や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりする力を概ね身に付けている。		外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を概ね身に付けている。
	C	外国語の音声や語彙、表現、文法言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用する技能を身に付けていない。		コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概念や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりする力を身に付けていない。		外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けていない。

令和6年度(2024年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	情報	学年	1 学年	単位数	2 単位
科目名	情報I	担当者	若原 正人		
使用教材	情報 I Step Forward(東京書籍)				
	情報 I Step Forward! 学習ノート(東京書籍)				
	プログラミングの基礎 Python編(実教出版)				
学習目標	1 情報と情報技術及びこれらを活用して問題を発見・解決する方法について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについての理解を深めるようにする。				
	2 様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。				
	3 情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。				
	4				
学習方法	1 教科書を使って基本を学ぶ。				
	2 学習ノートを使って、情報や情報技術について理解を深めて定着させる。				
	3 プログラミングの実習を通して、論理的思考力を養い、プログラミングに親しむ。				
必ず取り組む最小目標	情報と情報技術について理解し、活用する。様々な事象を情報と結び付けられる。				
実現したいと思う最大目標	情報と情報技術を活用して問題を発見・解決する。情報社会に主体的に参画する為の基礎力をつける。				
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、10段階「10」～「1」で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階「5」～「1」で評定を行う。				
	観点	知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	評価方法	・定期考査, 課題 ・小テスト, 単元テスト	・定期考査 ・課題の取り組み状況		・学習活動への取り組み状況 ・課題提出状況
	A	・情報と情報技術を問題の発見・解決に活用するための知識について理解している。 ・上記の技能を身に付けている。 ・情報化の進展する社会の特質及びそのような社会と人間との関わりについて理解している。	・様々な事象を情報とその結び付きとして捉えている。 ・問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用している。		・情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用しようとしている。 ・情報と情報技術の活用について、自ら評価し改善しようとしている。
	B	・情報と情報技術を問題の発見・解決に活用するための知識についてある程度理解している。 ・情報化の進展する社会の特質及びそのような社会と人間との関わりについてある程度理解している。	・様々な事象を情報とその結び付きとして捉えている。 ・問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を活用している。		・情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を活用しようとしている。 ・情報と情報技術の活用について、改善しようとしている。
	C	・情報と情報技術を問題の発見・解決に活用するための知識について理解していない。 ・情報化の進展する社会の特質及びそのような社会と人間との関わりについて理解していない。	・様々な事象を情報とその結び付きとして捉えられない。 ・問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を活用していない。		・情報社会との関わりについて考えようとしていない。また、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を活用しようとしていない。